

平成28年度 第4回新宿区産業振興会議 議事要旨

- 【日時】 平成29年2月28日(火) 午後6時～8時
【場所】 BIZ新宿(区立産業会館) 研修室A
【出席者】 委員:植田、河藤、松尾、酒井、前田、志村、加藤、富田、太田、遠藤、友成各委員
事務局:村上文化観光産業部長、太田産業振興課長、黒澤産業振興係長、久野主任主事、
後藤産業創造プランナー
【欠席者】 川名、益田各委員
【傍聴者】 なし
【配布資料】 省略
【内容】

1 開会

2 議 事

- (1) 第2次アンケート結果の報告
- (2) 専門部会からの報告
- (3) 産業振興ビジョンの検討

3 主な発言内容

○第2次アンケート調査結果の報告

- ・新宿区が重要と考えている「観光を活かした事業展開」や「海外展開」の関心は低く、「東京オリパラ」については、開催後も集客できる事業展開の関心が若干高いが、開催時に何かしたいと考えている企業は少ない。この結果を今後どう産業振興に結び付けていくのか考えなければいけない。
- ・情報化の推進については、ホームページやSNSなどの情報技術を活用した情報発信に関心があると答えた企業が48%いるので支援の必要性があると思われるが、別の見方をすればいまだにホームページなどの活用を挙げており、ITや情報技術の初歩的などころで、まだ定着しきれていないのではないかという感じがする。
- ・企業としては、「新規事業展開」や「人材の確保」といった基盤についての関心が高い。環境を活用していくことは大事なことだが、そればかりではないという企業が多いと思われる。次期産業振興プランでは、いま何が必要なのかを考えていくが、この10年ほどで起きると活用していくことと、企業の経営基盤を強化していくことは、別に考えなくてはいけないということが、今回の調査で出たのではないかと思う。

○次期産業振興プランの検討

- ・計画期間が10年というスパンは長い。今から10年前の状況を考えても、10年前からは想像できないようなことが現実に起き、スマートフォンなど10年前にはなかったものが普及している。10年後にどのような状態になっているのかを想像しても、想像以上の変化が起きる可能性は大きく、予想がつかないということを前提にしておくことが必要だと思う。それをふまえて、フレキシブルに環境の変化に対応できるようなものにしていく。
- ・次期産業振興プランは、方向性の柱が羅列されるよりも、それぞれが重なり合う部分があり、相互の関係がわかりやすく、構造的で戦略的であることが表現されることが望ましい。
- ・支援の柱が3つならば、重なる部分と重ならない部分が7つあり、それぞれにどのような施策があるのか、イメージの整理が必要である。
- ・方向性の柱が重なる部分は、地域に根差した産業を支援すると、外から多くの来街者が訪れ、さらに時代の変化に対応した個々の企業の支援が重なり合うといった、1つの支援でも、そこから波及する効果は2つ3つになるイメージである。
- ・新宿にたくさんの人が訪れるのは宿命であり、この来街者によるにぎわいを新宿でつくっていくことが重要である。来街者が地域の企業に何らかの波及効果をもたらすような、にぎわいが地域に落ちていく方法を考えることが必要である。
- ・来街者によるにぎわい創出と地域における産業振興は、非常に大事な課題で、これができていかないと、なかなか

か新宿らしい産業振興はできないだろうと思う。創出されたにぎわいと、個々の企業の展開や地域における産業振興が絡み合っていくような、仕組み・方向性がこのビジョンの中で描ければいいと思う。どういう仕組み、どういう展開があり得るのかは、想像力豊かに考えていかないといけないので、打ち上げ花火的にではなく、点が線になって面になるようなことを考えていかなければいけない。

- ・ビジョンは誰のために作るのか、何の目的でつくるのかを整理して、イメージがアップするストーリー、細かいこともしっかり考えておかないと、方向性の3本柱だけでは、何をやりたいのかということがわからない。一律の施策では対応が難しく、個別の企業、商店街や個店の状況もそれぞれ違うので、個別に考えていかなければいけないというのが、施策の底流に流れている思想だと思う。
- ・現在の行政は、個別のものに対して深く切り込んでいき、ソリューションを提供して、個別の支援策をうっていくということにはなっていない。これを始めると行政の職員は大変なことになってしまうが、やらなければ個別のリアルな現場を支援して何かを変えていくということではできない気がする。少なくとも、そちらの方向に少し舵を取って、個別の支援を手厚くして、少し変革していくという方向性に転換していけるといいのではないかなと思う。
- ・支援は何のためか。ゴールは何かと言えば、新しい価値を創造する産業が新宿にできることだと思う。根幹として、その創造している何かに支援をしていかなければいけない。それは頑張っている企業、頑張っている個人で、個へのフォーカスは欠かせず、個に対するビジョンをさらに奥深くしていくことは必要だと思う。
- ・新宿区に新しい産業を置くという施策は、強烈なインパクトを持っていないと、大きな変革は起きないような気がする。
- ・前の産業振興プランと新しく作るプランは何が違うのか、企業としては気になる所で、今ある施策は新しい産業振興プランのここに当てはまる、また新しい産業振興プランにないものは何なのかを出すすとわかりやすい。ただ、新しい産業振興プランに載せないものを、本当に辞めていいのかを考えることも必要ではないか。
- ・施策の縦軸と横軸に、エリアの概念を入れていった方がいいのではないかな。全体として新宿区をどうしていくのかとは別に、地域別の産業の特色を活かした施策というのもあると思う。商店街についても、それぞれのエリアによって個性があり、地域というエリアの概念など別の視点を入れていってはどうか。
- ・創業する人が地域に根づくような施策を考えてみてはどうか。創業する人が事務所を借りると賃貸するオーナーに家賃が入り、企業に雇用が生まれると近隣商店街で飲食をする。そうすると地域も潤う。創業する人が地域に根づき、地域の産業が活性化するという循環が生まれる形をつくるといいと思う。
- ・商店街に関しても、外から来た人たちの経済的効果を地元の商店街に落としてもらうためにはどうしたらいいのか、しっかりビジョンの中に書き込んでいく必要があるのではないかな。
- ・商店街の振興は、産業振興なのか、まちづくりの取組みなのか、一体として捉えるのか、支援の方向性を考えていく必要があると思う。
- ・新宿にある商店街をすべて同じように見るのは難しいだろう。駅周辺の商店街と、住宅地の近くに存在している商店街とでは状況も違い、それを一緒に支援する必要はないと考える。
- ・商店街や地域はそれぞれいろいろな特色があると思う。地域の特徴を活かした連携やイベント開催など、人が集まりやすい環境を作り、自ら人を呼び込む仕掛けを作る。そこに集まる人たち向けのサービスや仕組みをつくっていくと面白いことができるのではないかな。
- ・ビジョンは、夢があり、現状から考えて可能性のあることを指し示せるようなものにしていきたいと思う。

4 次回日程について (予定)

- | | | |
|------------|-------------------------------|------------------|
| (1) 専門部会② | 日時：平成 29 年 4 月 11 日 (火) 10:00 | 会場：BIZ 新宿 商談室 |
| (2) 専門部会③ | 日時：平成 29 年 4 月 25 日 (火) 18:00 | 会場：BIZ 新宿 研修室C |
| (3) 産業振興会議 | 日時：平成 29 年 5 月 23 日 (火) 18:00 | 会場：BIZ 新宿 多目的ホール |

5 閉 会